

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
所管グループ 研究開発グループ

| 整理番号 | 施策目標等 | | 試験・研究課題名 | 研究目的 | 研究概要 | 試験研究始期・終期 | | 評価結果 | 理由 | 外部評価アドバイザー意見 |
|------|-------------------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| | 施策目標 | 研究課題分類 | | | | 始期 | 終期 | | | |
| 1 | 1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給 | 農産物の積極的な生産拡大・安定生産のための技術開発 | 樹種ごとの危険限界温度の解明と散布型防霜資材の効果確認 | 本県の果樹主要品種について、発芽期、開花期、幼果期など発育ステージごとの低温による花器障害の程度を試験し、「危険限界温度」等の判断基準等を明らかにする。また、葉面散布による散布型防霜資材を試験し、容易に対応可能な防霜方法を確立する。 | 本県の主要品種について、発育ステージごとの低温障害の発生状況を確認するとともに、気温・樹体温度測定方法を確立する。また、ジャスモン酸他、葉面散布剤による低温抵抗性の付与効果を検討する。 | 17 | 19 | C | 防霜技術は、特にニーズが高く重要な取り組みと考えられるため、継続して実施すべきである。なお、前述の理由で、当初の計画年次について2年間の延長が必要である。 | 妥当な評価。散布型防霜資材を使った方法についてはコストを明らかにすると有用。 |
| 2 | 1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給 | 農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発 | リンゴわい性台木を利用した管理しやすい高生産性樹形の開発 | リンゴの低樹高栽培技術を確立することで、作業時間短縮や作業難度低減による作業効率の向上を図り、労力不足や大規模経営へ向けた省力化技術を整備する。 | 低樹高栽培技術を確立するため、新樹形を試作・検討するとともに、不織布ポットを利用した根域制限による樹勢調節効果を明らかにし、リンゴ栽培における省力栽培技術を確立する。 | 16 | 20 | B | 樹形の改善は、今後の果樹生産振興を図る重要技術であり、今後は作業性の解析を進めて、速やかに技術移転できるようにすべきである。 | 意義の大きい研究で、来年度も継続実施すべきであると考えられる。 |
| 3 | 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 | 畜産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発 | 肉用育成牛の効率的飼養管理技術の確立 | 早期母子分離した子牛を省力的に哺育育成できる自動哺乳機（哺乳ロボット）を利用した集団育成方法について検討し、効率的な繁殖育成技術の確立をはかる。 | 子牛の適正哺乳回数、哺乳量及び哺育育成方法の違いによる発育性・経済性を検討し効率的な哺育育成技術を確立するとともに、母性効果についても併せて検討する。 | 16 | 20 | B | これまで調査した哺乳行動パターン等について更に様々な角度から分析を加えるとともに、経済性評価の際には、自動哺乳機の導入が想定される客体の飼養規模等、実用規模での設計にも十分配慮したうえで、継続実施すべきである。 | 既存の技術にどの部分が新しく加わったものか判然としないが、統計的な評価と経営的な評価を今後行うということで妥当な結論であろう。 |
| 4 | 地域産業の振興 | 中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発 | 畜産型土地利用管理技術の確立 | 和牛繁殖経営において晩秋用備蓄放牧地（A S P）利用技術及び飼料イネと牧草、麦類を組み合わせた一年二作体系技術を検討し、簡易な畜産の利用を目的とした土地利用管理技術を確立する。 | 晩秋用備蓄放牧地（A S P）利用技術や一年二作体系技術および日本型放牧技術を検討し、遊休農地を含めた農地の低コストで簡易な畜産的利用システムを構築する。 | 16 | 20 | C | 遊休農園及び耕作放棄水田の草地化、放牧利用技術の普及が進む中、早期の技術移転を図るためには早急に現地実証を行う必要があることから、一部計画を改善して実施すべきである。 | 意義の大きい研究で、来年度も継続実施すべきであるとされるが、飼料の需要側からのニーズ・要請にも留意して、現地実証等を行って頂きたい。 |